

乾燥地域におけるオイスカの国際協力活動

(ミャンマー)



公益財団法人
オイスカ四国研修センター
萬代保男

ミャンマー農林業研修センター 1997年10月開所

●乾燥地における農業技術移転及び植林による地域住民の生活向上

●最高気温:40度・雨量:300mm(年間)

パコク県エサジョ郡バカジー村



OISCA農林業
研修センター

ヤンゴン



乾燥地 年間雨量 300mm



河川からの取水

用水路整備



・草の根無償支援
・経団連自然保護基金支援



オイスカ「OISCA」

Organization for Industrial Spiritual and Cultural
Advancement International

物質・精神・文化が調和した繁栄を築く



34の国と地域に組織を持ち活動

- 地域開発
- 人材育成
- 環境保全活動

2011年 50周年を迎えました。

	暑期	雨期	乾期
北部	4~5月	5月 ~ 10月	11月 ~ 3月
南部		雨量: 1000mm以上	
中部 (乾燥地域)	4~5月	5月 ~ 10月 雨量: 200~300mm	11月 ~ 3月

生活用水のための水確保



雨水を利用



ため池の水を利用

ミャンマー農林業研修センター

農場整備のための水源確保

- ・大型井戸 4基設置
 >高いアルカリ性(PH9.5) => 稲作に適さない。
- ・河川水&ため池の水利用
 >チンドイン川からの取水 => 用水路整備
 - ・外務省草の根無償支援
 - ・WFP支援
 - ・経団連自然保護基金支援

村人たちによる池づくり

雇用による収入確保(WFP支援)



牛車による水運搬

ため池からタンク運搬による村人への水供給



植林

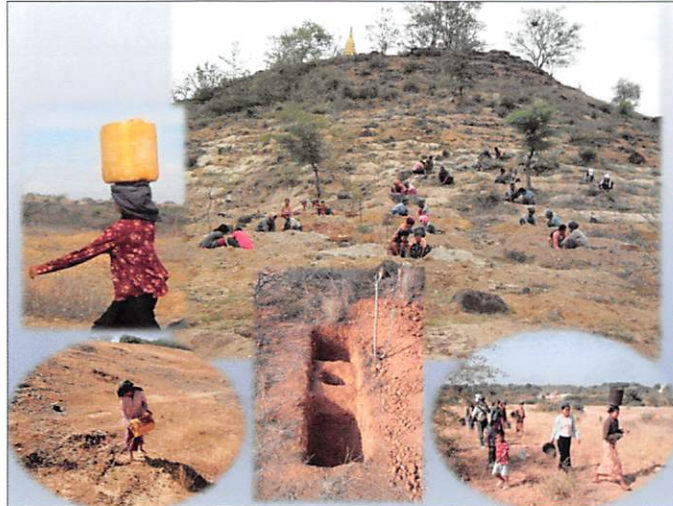
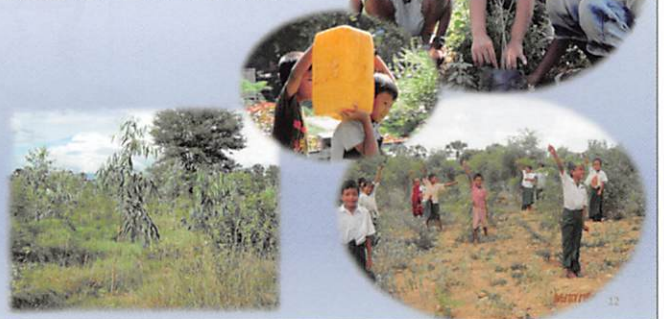
苗畑による苗木づくり



「子供の森」計画 CFP (Children's Forest Program)

世界34の国と地域において

4,650校の小中学校で実施中



水田

面積: 5ha
種類: 日本米、現地米



野菜畑

利用水: 灌漑用水、雨水、リサイクル水
種類: トマト、キャベツ、カリフラワーなど



食品加工

食品加工による収入源確保と生活改善
・種類: パン、クッキー、ケーキ、麺類など



養鶏

鶏: 1500羽
ウズラ: 800羽
鶏糞: 農場へ有機肥料として使用



タンクに溜めた雨水を利用

養豚

親豚:4種類

豚数:400頭(年間)

糞尿:農場への有機肥料として使用



オイスカの目指す国際協力



すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界

ご清聴ありがとうございました。

わたしのいく道



6東 香川県小学校道徳教育研究会

世界の人と手をつなごう



地球環境のことを学んだ明夫は、もっと深く知りたいと思い、青年海外協力隊として、バングラデシュに行ったことのある浜田洋司さんをつなぐ。話を聞きました。

一、気持ちを通じた

わたしは最初、日本の野菜さばいの技術を伝えたいと思って、バングラデシュに行った。日本では種を蒔き、収穫まで何回か農薬を使って育てるのが普通だね。バングラデシュではそういう育て方はできないんだ。この国に通じたさばい方法を見つけるまでには時間がかかったよ。
仕事を始めたときは、気の合う仲間もなかなかできなかったね。日本人だったらこうしてくれるのになあなんて、ずいぶん腹立たしい思いもしたよ。とにかく、バングラデシュの人たちは何でもはつきり言い合うんだ。
しかし、しばらくすると気が付いた。日本では、「あの人は大変そうだから手伝ってあげよう」などと、相手の気持ちを思いやって生活することが多い



いね。でも、バングラデシュでは「わたしは大変だから手伝ってほしい」と、自分の立場をはつきりぶつけ合いながら生活していく社会なんだ。
そのちがいに気がついて、わたしもバングラデシュ流に、自分のことをえんりよなくはつきり伝えることにした。そうしていくとだんだん思いが通じ合うようになったんだ。
なかよくなつてからは、家にもまねいてもらって楽しく過ごした。大家族の家が多くて、家族がたがいにしつかり助け合っている様子には感心したよ。

二、マングローブの森が広がった

バングラデシュの海岸の自然が、いぼうとなつていたマングローブの森は、十数年前に、木を切つてまきにしり、あと地をエビの養殖の場に変えたりしたため、ほとんど消えて行った。するとサイクロン(台風)の被害が大きくなつていったそうだ。そこで十年ほど前、そのことに気がついたバングラデシュ人のサイフル・イスラム・チヨウドリーさんが、森をよみがえらせるために立ち上がった。

そしてこの活動に日本の人たちが協力し始めたんだよ。

オイスカ、アジアとて、人がくまのり、困りくの手伝いをしてる団体、森林を育てるための研修センターの運営や、植林を中心とした環境保護を行つていて、

オイスカ、アジアとて、人がくまのり、困りくの手伝いをしてる団体、森林を育てるための研修センターの運営や、植林を中心とした環境保護を行つていて、



再び大きなサイクロンがおそつてきたときだった。植林した木が大きく育つていた地域だけは被害をまぬがれた。それを見た住民たちは植林の効果を実感したんだ。それらしい協力を申し出てくる人たちも小え、近くの小学校の子どもたちもいっしょに植林するようになったそうだ。それから子どもたちは進んで、近寄つてくる水牛を追いはらったり、植えたマングローブの世話を続けたりしたそうだ。
今では植林したマングローブ林は、そのころの二倍ほどに広がっているそうだよ。それに、いなくなつていた海の生き物たちが帰つてきているそうだ。浜田さんは、「みんなどうしているかなあ。大きく広がったマングローブの森を見に行きたいなあ。」
と、なつかしうに話してくださいました。